

デスティニー?『状況劇場』×『天井桟敷』 in 八東高表現科

文/県立八戸東高校表現科 主任 木村浩哉



「アタシがこの手で楽にしてあげろ。」と言って、捕えられ生氣を失っている善住坊(故川谷拓三)の首に鋸状にした竹を当てた仲間のお仙(李麗仙)は涙ながらにそれを一気に引く。脇にいる助左衛門(松本幸四郎、当時市川染五郎)は善住坊の名を呼びながら鼻水を垂らして泣き叫ぶ。昭和五十三年のNHK大河ドラマ『黄金の日々』のワンシーンである。当時、私は涙を流して見入った。

李さんをこの謎の女性『お仙』役というより、『金八先生』の教頭先生といった方がわかりやすいかもしれない。公演の打ち合わせで八戸に来るのだが、その際地元の高中生との交流を企画しているとお話をいただいた。校内で調整をし、対象を2年生表現科1クラス、充てる授業を本校非常勤講師蛭名義一先生の『舞台芸術』と同じく久保田幸造先生(サウンドクリエイティブ社長)の『映像メディア表現』とした。

このクラスは前月に県教育委員会より事業補助を受け、三沢市の『寺山修司記念館』で、館長さんから講話をいただき、寺山作品に触れてきている。李さんは寺山が劇団『天井桟敷』で活躍していた時代、ライバル関係にあった唐十郎率いる劇団『状況劇場』の看板女優であり、『アングラの女王』と呼ばれていた。事前学習として蛭名先生には、この辺りのアングラ界について話をしてもらった。いよいよ李さん生徒の拍手に迎えられて登場。「最近、李麗仙と

島(ウミネコ)の家族愛には惹かれるものがあり、是非ここで芝居をしたいとずっと思っていたことを語った。その後休憩もとらずワークショップ。「みんな木をイメージして木になってもらえ。」生徒を十分ほど「木」にさせた。「何の木になってた?」の問いに背筋をピンとさせて「ゆりの木です。」という生徒も(さすが八東生)。後半「何か質問は?」に生徒から「女優としての課題は何ですか?」とあまりにもストレートな質問がでた。李さんは微笑みながら「自分にとっての課題は年代で変わる。今はやはり年齢から考えて健康かな? それから今の自分があるのは芝居のおかげなので、芝居への感謝の気持ちを忘れないようにしています。」と答えてくれた。私自身が李さんの演技に感涙したのは高校時代。同じ年代となった生徒にその李さんが指導する機会を設定できた。不思議な運命に感謝した一日であった。

実はこの日、前月お世話になった寺山記念館の寺山館長をお呼びしていた。私は是非館長さんと李さんのツーショットを写真に納め

いうより、大鶴義丹の母親っていう方がウケるのよ。」と笑わせてから話し始めた。そして蕪



Friday Amusement Negative Shop

4月のFANS (791~794回)

だべり場2009.04

演劇上演ではありませんが、次の日程で開始予定です。

開演	4/3	4/4	4/10	4/11	4/17	4/18	4/24	4/25
14:00	●			●		●		●
19:30	●		●		●		●	

たかった。四十年前、深夜の渋谷の路上で『天井桟敷』と『状況劇場』の計二十名の劇団員同士の乱闘事件があった(特に『状況劇場』側は舞台メイクのままで、通行人もびくりである。全国紙でも取り上げられた演劇史上の事件である。もちろん後に和解し李さんも寺山の芝居に出ている)。寺山修司の従兄弟で幼い時起居を共にした寺山幸四郎館長さんと『状況劇場』設立メンバーで当時唐氏夫人の李さんが笑顔で並んだ姿。天国の寺山修司は自分の故郷での運命的なツーショットを見て苦笑いしているに違いない。生徒は百年たてば写真の意味がわかるだろう。

来る五月九日・十日、蕪島で李さんの一人芝居『桜川』が上演される。六百年前の世阿弥の作品を現代に脚色したものである。テーマは時を超えても不変な親子の情愛。幼い時に離ればなれになった母子が再会するシーンがある。これはまた運命(デスティニー)的ではないはずがない。

演劇空間

スペースベン

八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
☎ 080-6025-0990

HP <http://spaceben.com/>Eメール owner@spaceben.com

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

4月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ「ひよっこ時代」

クラス会で……………山田実
再出発……………佐々木美央
「ビート3号」……………炭釜宗充
火酒学事始……………桃沢孝友
人生の未熟者……………木村祐子
青森の子……………木森啓



●今月のインタビュー

八戸聖ウルスラ学院高等学校講師

榎谷伸夫さん(60歳)に聞く

読む楽しみ **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社

八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636